

# はーとふるるメッセージ

## 2001

### 第4回

#### 特選作品紹介

(学年は、いずれも応募時のものです。)

#### 作文・小学生の部



大西 真奈実 さん  
(亀山小学校5年)

#### 自分らしく 生きることが大切

私が保育園に行っていたとき、足に障がいがある友達がいました。その子はいつも歩行器で歩きます。よく、ロッカーの上の台を持ち、立ちあがって、「立てるようになったよ。」とうれしそうに話してくれました。友達も、いつも明るく、楽しくおしゃべりをしていて、まるで障がいがないかのように元

気にすごしていました。でも、ひとつだけちがうところがありました。それは、公園などに遊びに行くときです。私たちがみんなは先生につられて歩いていきますが、友達は、先生におんぶしてもらったり、お母さんに直接公園まで送ってもらったりしていました。私は、そのとき、いろいろなことが考えられなかったのです。いっしょに歩きたいな、いっしょに行きたいな、と思っていました。公園では、みんないろいろな遊具で遊んだり、走りまわったりしていましたが、友達は先生やお母さんに手をかりて遊んでいました。でも、いかな顔をせず、いつもここにこしていました。「どうして、そんなにいやって思わないんだろう」私は思っていました。その

後、友達とは、ちがう小学校に入学しました。市内の行事で二、三回顔を見ましたが、あのときと同じように元気でした。私の弟の友達にも障がいのある女の子がいます。その女の子は、運動会するとき、年長組がすること

#### ポスター・ 一般の部



植田 弥和 さん  
(彦根女子高校1年)



きをしようと思わず、いすにすわったままでした。先生がばちを持っていて、いすを引こうとすると、「いや」といって泣いていました。先生もいっしょうけんめいなくさめ、立たせようとしていたのですが、だめでした。その女の子はみんなとちがうこと、障がいがあることで心がきずついていたのでしょう。みんなといっしょにできない自分がいやだったのかも知れません。私の友達はどうしてあんなに明るく元気にすごせていたのでしょうか。私は考えました。できないことをよくよしていても前には進めません。できないことがあれば、できることもたくさんあります。友達は自分ができることをしっかりと見ていたのだと思います。人は何かができるか、できないか、また、障がいがあるかないかなんて関係ないのです。だれもみんな元気に明るく、いろいろなことに挑戦し、楽しく生きたいと思っています。

#### 標語・一般の部

内堀ふみ代さん  
(株ベストーネ)

### 残さない次の世代に 偏見を!

楽しく毎日を送るには、どうしたらいいかが大切なのだと思います。友達はそんな考えを持っていたのかも知れませんが、むりすることなく、自分らしく、そのままですぐすのが一番うれしいです。できないことは手伝ってもらえばいいし、できることは一生けんめいやればいいと思います。私も私らしく、人とくらべることなく、楽しく毎日を送りたいです。友達にまけないように。

#### 選評

ありのままの自分を受け入れ自分らしく生きていくことの大切さ、そのことを作者は、幼いころに出会った障がいのある友達から学びました。自分らしく精一杯生きることができるとは、ほかの人も受け入れることができます。「みんなちがって、みんないい」そんなメッセージを感じ取ることができます。明るく前向きな文章です。